

## 出題の意図

大問1は、野家啓一『物語の哲学』（岩波書店、2005年）の第2章「物語と歴史のあいだ」を素材として、論理的な文章の読解能力を試そうとするものである。

問1においては、著者が提示する「物語行為」の意味と特徴とを正確に読み取ることができるか否かが問われている。特に、著者による分析に基づく「言語行為」の内容や特徴との対比において、また「話す」と「語る」とに関する著者自身の考察を素材としつつ、この点について具体的に理解し、説明しうるかどうかを確認することにその主眼がある。

問2では、上記「物語行為」と過去の出来事・行為との関係に関する著者の見解を正確に把握することができるかが問われている。具体的には、裁判において、ある過去の事実について複数の証言が行われ、それらの内容が食い違った場合を念頭に置きながら、上述の論点に関する著者の主張の要点を具体的に説明しうるか、を試そうとするものである。

大問2は、課題文の読解力と的確な文章表現能力を判定するために出題した。初めて目にする概念や事象であっても、課題文に示された具体例を手がかりに、正確にその意味内容を捉えて課題文の趣旨を理解できているかを問うた。限られた文字数の中で自らの文章読解力を採点者にも分かりやすく表現するためには、重要概念を中心に過不足なく要約する能力と文章構成力が求められる。